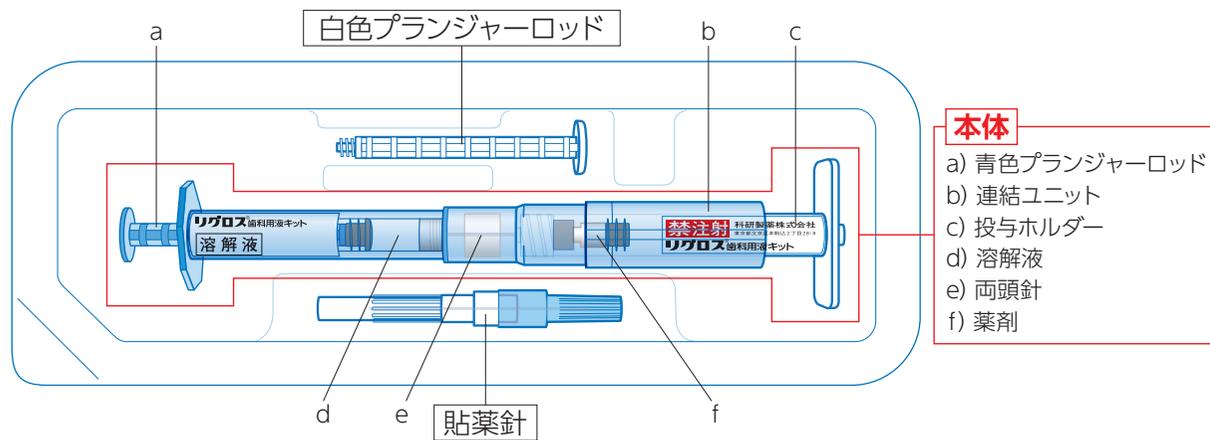


リグロス® 歯科用液キット 600 μ g / 1200 μ g 調製方法 (裏面に“調製時の留意点”を掲載)

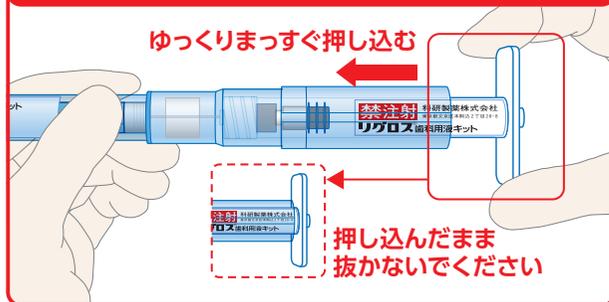
医療関係者用

手順1: 部材の確認・取り出し

開封口よりシールをはがします。下図の部材が入っていることをご確認ください。確認後、注意して全ての部材を清潔な場所に取り出してください。



手順2: 投与ホルダーの押し込み

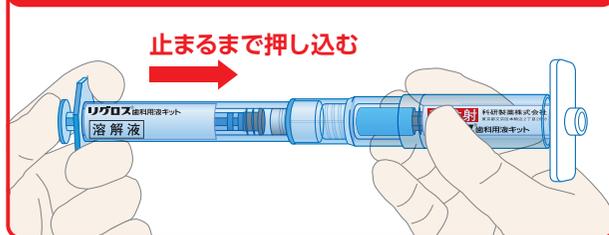


注意して本体を手に取り、投与ホルダーをゆっくりまっすぐ最後まで押し込みます。

押し込んだ後は左図点線枠内の状態となり、薬剤と溶解液が両頭針で連結されます。

※注意：投与ホルダーは押し込んだまま抜かないでください。万が一抜いてしまった場合は裏面をご覧ください。

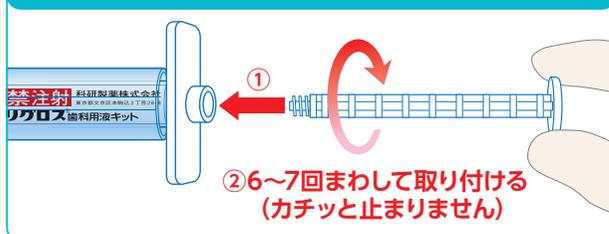
手順3: 溶解液の移動



青色プランジャーロッドを止まるまで押し込みます。

溶解液全量が投与ホルダー側に移動します。

手順4: 白色プランジャーロッドの装着



白色プランジャーロッドを投与ホルダーに挿入し(①)、軽く押しながら時計まわりに6~7回まわして取り付けます(②)。

※注意：まわし続けてもカチッと止まりませんが、6~7回で装着は完了しています。

手順5: 薬剤の混合溶解

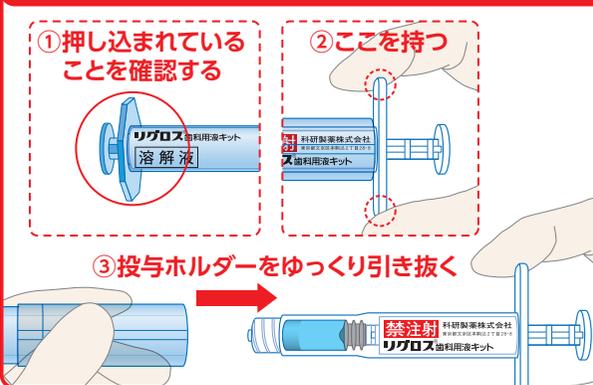


白色プランジャーロッドを止まるまでゆっくり押し込んだ後(①)、青色プランジャーロッドをゆっくり押し込みます(②)。この操作を交互に10回(5往復)繰り返します。

この操作により、薬剤が完全に溶解し、均一になります。

※注意：気泡により薬剤が白く見えることがありますが、品質に影響はありません。

手順6: 薬液の確認・取り出し

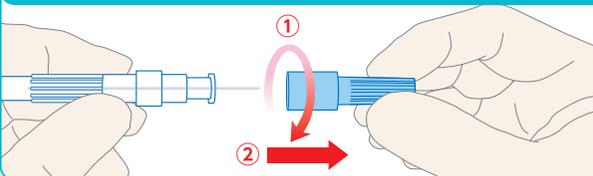


青色プランジャーロッドが止まるまで押し込まれていることを確認します(①)。

薬液全量が投与ホルダー側に移送された状態です。

白色の投与ホルダーのつばを持ち(②)、連結ユニットからゆっくり引き抜いて(③)、いったん清潔な場所に置きます。

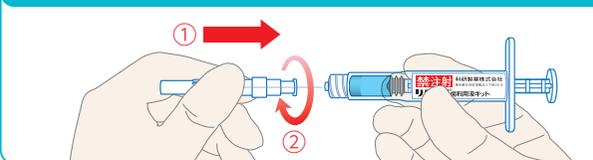
手順7: 貼薬針の装着準備



貼薬針の装着は投与直前に行ってください。

貼薬針の青いキャップをひねって(①)外します(②)。

手順8: 貼薬針の装着



投与ホルダーの先に貼薬針を挿入し(①)、時計まわりに止まるまで締め付けます(②)。以上で調製は完了です。貼薬針の白いキャップは投与直前まで外さないでください。

粘性が高く、貼薬針が細いため、投与の際はしっかり押ししてください。薬液が少なくなると固く感じることがあります。

リグロス®の調製方法は動画でもご覧いただけます。

詳しくは医療関係者向け情報サイトをご覧ください。 <https://regroth.jp/>



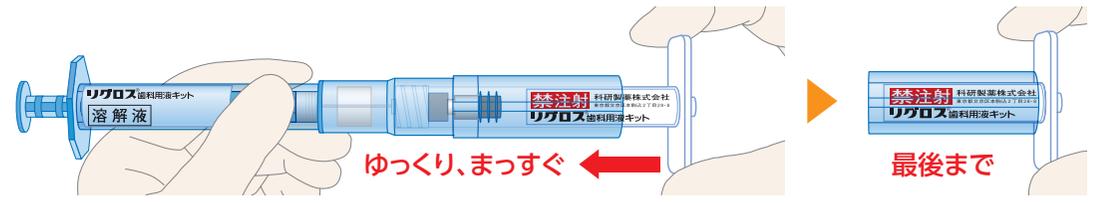
リグロス[®] 歯科用液キット 600 μ g / 1200 μ g 調製時の留意点

医療関係者用

投与ホルダーの押し込み

Point 投与ホルダーは、**ゆっくり、まっすぐ、最後まで**押し込んでください。このとき、両頭針がゴム栓を貫通し、薬剤と溶解液が連結されます。

投与ホルダーを斜めに押し込むと、ゴム栓と両頭針の間に隙間が生じやすくなり薬剤が漏れやすくなります。



溶解液の移動

Point 必ず先に**青色プランジャーロッド**を押し込んで溶解液を移してから、**白色プランジャーロッド**を装着してください。

● 操作の例



● 好ましくない操作の例



薬液の混合溶解

Point 薬剤の混合溶解は、**ゆっくり交互に10回(5往復)**繰り返してください。



両端のプランジャーロッドを最後まで押し込むと、しっかり混合されます。

貼薬針の装着

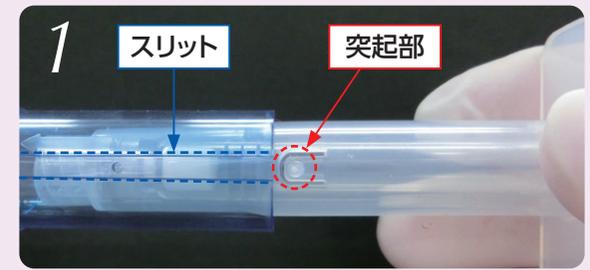
Point 投与ホルダーへの貼薬針の装着時は、**貼薬針が回らなくなるまで強く締め付けてください。**



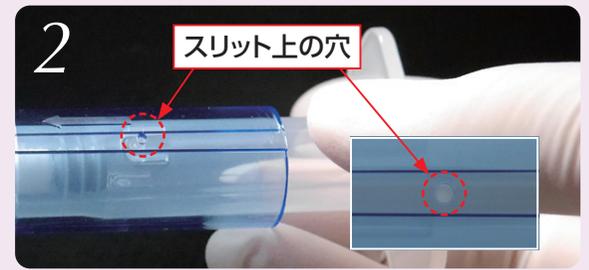
薬液が出ない場合、貼薬針の装着操作を再度お試しください。

● 万が一、投与ホルダーを抜いてしまった場合

以下の手順で再挿入していただくことで、再度調製が可能となります。



連結ユニットのスリットと投与ホルダーの突起部が合うように、投与ホルダーを挿入するとスリット上の穴が一致します。



投与ホルダーの突起部とスリット上の穴が一致したのを確認後、投与ホルダーを最後まで押し込んでください。

歯周組織再生剤

薬価基準収載

リグロス[®] 歯科用液キット
600 μ g / 1200 μ g
REGROTH Dental Kit 600 μ g / 1200 μ g
トラフェルミン(遺伝子組換え)製剤 処方箋医薬品(注意-医師等の処方箋により使用すること)

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

1. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
2. 口腔内に悪性腫瘍のある患者又はその既往歴のある患者

[本剤が細胞増殖促進作用を有するため]

製造販売元
科研製薬株式会社
KAKEN 東京都文京区本駒込二丁目28番8号